

2009年度認定審査サマリーレポート

J A B E E の認定・審査は、16 技術分野の分野別審査委員会と、正会員 81 専門学協会の協力を得て実施されています。審査チームによるプログラムの審査結果は、分野別審査委員会での調整後、認定・審査調整委員会において全体の審議、調整を行い「最終審査報告書」としてまとめられます。この最終審査報告書に基づき、認定会議において各プログラムの認定可否と認定期間を決定します。

2009 年度学士課程プログラムの審査の結果、新規の 15 プログラム（13 教育機関）を含む 122 件のプログラムが認定されました。

2001 年度に認定を開始してからの新規認定プログラムの累計は、163 教育機関で 424 プログラムになりました。この内 84 校（52%）の教育機関では複数プログラムが認定されています。また、認定プログラムからの修了生の累計は約 12 万人に達しています。認定プログラム数の内訳は、国公立大学 230（54%）、私立大学 122（29%）、高等専門学校（専攻科）71（17%）、大学校 1（0.2%）となっています。また、分野別では、機械 69（16%）、土木 63（15%）、工学〔融合複合、新領域〕52（12%）、化学 49（12%）、電気・電子・情報通信 48（11%）、情報 35（8%）、建築 29（7%）、農業工学 19（4%）、農学一般 12（3%）、材料 12（3%）、地球・資源 10（2%）、環境工学 7（2%）、経営工学 5（1%）、森林 5（1%）、生物工学 5（1%）、物理・応用物理学 4（1%）となっています。

2009 年度の審査には 341 名の審査員が審査に当たりました。また、169 名の審査員候補者が、オブザーバーとして審査チームに参加しました。審査員・オブザーバーのうち産業界の経験者は 178 名でした。的確な審査を実施するため、審査員に対する事前研修会を 2 回開催し、238 名が参加しました。

審査結果の審議・調整において、2009 年度も学習・教育目標（基準 1）の具体性、およびそれらを達成するための教育手段と評価方法の適切さ（基準 3）、そして学習・教育目標達成度の評価の妥当性（基準 5）が、P D C A サイクルの中で強く関連することを重視しました。これは、教育の質保証のための審査の基本的観点として従来から留意していることであり、教育機関の理解も深まりつつあります。J A B E E は、この観点を徹底することが、教育の質を保証し、教育の質を継続的に改善していくために重要であると考えています。

J A B E E の認定開始から 9 年目を迎え、認定を継続するための認定継続審査が、2009

年度の全審査の60%強となりました。なお、新規審査と中間審査はそれぞれ10%強、20%強でした。認定継続審査を受けたプログラムの多くは、PDCAによる継続的改善によって、上記のような学習・教育目標、教育手段・教育方法、達成度評価法などを見直し実際の教育改善が図られていることが認められました。

具体的には、基準1の学習・教育目標の設定について、新規審査では約30%のプログラムで改善が必要と判定されましたが、認定継続審査のプログラムに対して改善の必要性が指摘されたのは10%以下でした。また、教育手段と評価方法の適切さ(基準3)についても、新規審査プログラムでは約50%に対して改善の必要性が指摘されましたが、認定継続審査のプログラムでは20%以下でした。達成度評価の妥当性(基準5)に関しては新規審査と認定継続審査との間にさらに大きな差が見られました。

関連して、認定継続審査では約60%のプログラムが6年の認定有効期間となり、昨年度より約10%上回りました。ただし、認定継続審査の場合でも17%にあたるプログラムに対して継続的改善の程度がまだ弱いことが指摘されたほか、改善の必要性を指摘された基準項目が前回の審査より増えたプログラムもいくつか見られました。前回の審査で基準に適合すると判定された項目についても改善努力を継続することが重要です。

なお、昨年度までは中間審査の審査項目の点検結果に「弱点(W)」または「欠陥(D)」が含まれていた場合は不認定となりましたが、2009年度からは、審査項目の点検結果に「欠陥(D)」を含む場合のみ不認定とすることにしました。これは、中間審査において「弱点(W)」をより適正に判断することにより、プログラムの継続的改善を促したいという方針に基づくものです。

技術者教育の重要事項である「エンジニアリング・デザイン教育」については、教育機関の理解と意識の進展が認められましたが、具体的取組みについては、一層の工夫と改善の余地があると判断されます。

認定プログラム数の増加とともに、プログラムの変更が増えています。学部や学科の再編によるコース編成の改変、およびそれらに伴う学習・教育目標やカリキュラムの変更が主な理由です。2009年度は約70件の変更通知がありました。

プログラム名称が変更された場合は、官報掲載も考慮して再検討を要請した事例がありました。教育内容や運営組織の変更の場合は、変更後も認定を継続して差し支えないか否かを確認または判定するために、審査の種別および時期を決定して回答しています。変更通知の審議で最も注意するのは、それまでJABEEに対応していなかった学科内のコース等を併合した場合の学習・教育目標の達成度の水準低下です。変更後の継続審査で、学習・教育目標達成のための教育方法や達成度評価に関する基準への適合性に懸念あるいは弱点が指摘された事例も見られました。

2009年度は、高等専門学校プログラムを対象に新しい審査体制での複数プログラム同

日審査を実施しました。これは、原則として1プログラムの審査を1名の審査長が行い、審査長代表が全プログラムに共通する事項の判定の調整等の取りまとめを行うもので、例えば3プログラムを同日審査する場合は、審査長代表を含めて4名の審査チームになります。これは米国のABETの審査方式に近いものです。複数プログラムがJABEEの認定を得ている教育機関が増えていますので、教育機関の負担の軽減と分野間の審査の均質性等の観点から、将来的にはこの審査方式に移行したいと考えています。JABEEでは当初、工学（融合複合・新領域）関連分野で認定を受けた高等専門学校プログラムが、複数の専門分野のプログラムに分かれて認定を受ける場合の審査に適用するためにこの方式を設置しました。2009年度からは、高等専門学校プログラムに限って、既に認定されている複数のプログラムを同日審査する場合への適用を開始しました。高等専門学校プログラムの場合、大学学部のプログラムに比較して1プログラムの履修生が少人数であるほか、各プログラム間の共通事項が明確であることからこの審査方式が適用しやすい事情にあります。

なお、通常の編成の審査チームで行う大学学部等の同日審査は、分野間の審査の均質性を高める面からは徐々に実効を上げていますが、受審校、審査チームおよび審査チーム派遣機関の負荷の低減に継続して取り組みます。

注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科、専攻やコースなどの総称です。

